

## 全国幼年美術の会 五十周年記念、を迎えるに当たって

廣富 靖海



会員の皆様、本会創立五十周年の佳節を迎えますこと、共に慶び合いたいと存じます。

さて、本会の創設当初は暫く比叡山延暦寺を会場として、二日間の日程で研鑽したことが思いだされます。戦後流動する社会情勢や教育現場の混迷期の中で、岡田清先生を中心に、教育の理念を探り、子育ての重要性を、表現を足場として、健全な思考・実践を継承して今日に至りました。

今、ふと立ち止まって当時の一駒を想います時、比叡山の静寂な空気に包まれ、蝉しぐれの中、冷房設備もなく、木の板のさしむ薄暗い長く続く廊下を、何回も移動したことが思いだされます。私も当時は若かったですし、何事も新鮮さがあって、求めようとする気質を押えられず、質問もし、感じたままの意見を述べたりもしたことが昨日の様に蘇って来るのです。

先達者の先生方は、その都度、丁寧に、親切に、時には共に考えても戴きました。教えるというのではなしに、発言者と共に考えようとする姿勢がありました。根元に同志という気風が漂っていたと言えます。それに加え、幽玄な延暦寺の境内の散策、根本中堂での早朝勤行参加などの体験が、一層、研修会を永続させる必要性を覚えさせるものになったと思うのです。この様な精神が、全国支部を生み、この様な基盤が失われず、運営の「バックボーン」として継続されたればこそ、半世紀の運営が成されたものと信ずるのです。

毎回出されます会報、の会員の方々の実践報告や、各支部に於けるお取り組みなど、また、回を重ねます夏季大学の運営にしましても、これらの事々が反映され継続されているものといえるのです。この様な展開の基本に皆様方のお力を覚えるのです。

不肖な私ですが、子育ての中で、子どもの想いと表現を結んで、日夜取り組まれておられる皆様方のご努力なくして果たせ得なかったことを肝に銘じての今日です。有難うございました。美育文化協会のご配慮、ペーター(株)の皆様のお力添えなど、何かもう少し気の利いた記念のご挨拶を申し上げるべきでしたが、雑駁なことしか浮ばず重みのないものに終始しましたことお許しください。最後に、皆様方の益々のご活躍とご健康をお祈りし、感謝の気持ちでご挨拶といたします。

(ひろとみ やすみ・全国幼年美術の会会長)



## 幼年美術への思い

木村 量好

50年の長きに亘る幼美の研修成果は大きく、会員一人ひとりに計り知れない大きな力を付けて来た。

創立会員である故松井清人先生（前幼年美術の会会長）とは、同じ伏見区に住んでいたと云う事もあって格別親しくさせて頂き、よく旅行にもご一緒させて頂いた。先生は子どもと関わる保育者の感性を豊かにすることが大切だと、美しい場所に出かけて行くことや、美しい美術作品に触れることを勧められた。そして自由表現の保証と子どもの表現内容で色彩・形・思いなど、子ども自身を見抜く力を身につけることの大切さを強調された。その頃、少人数で委員会を数多く重ね、丁寧に議論して内容をまとめると同時に、それを会員に伝えることで、全体に内容を拡げてゆく手法をとらえていたようであった。

子どもの絵の見方・考え方・指導の仕方など、会を重ねるごとに深められ広がっていった。役員理解や共通認識にも徐々に一致が見られるようになった。この積み重ねに勝る研修はないと思えた。

今は、個々に忙しくなり、そうした個別の研修の機会も、少なくなることは寂しいことである。と同時に、内容の低下に繋がることだと思う。今後は、大小、数多くの会合を重ねることで、議論を深め、お互いに力を付け合うことが、大切ではないかと思っている。

(きむら かずよし・全国幼年美術の会副会長)



# 幼年美術の会 50年の歩み

※主な講師は故人を除き現在全国及び地区幼美に関与されている方  
※受講料等及びテーマが前年と同じ場合は省略しています

## ■第1回幼年美術夏季大学(昭和39年)

期日：8月27日(木)～8月29日(土)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：180人

参加費：400円

宿泊費：1,800円(2泊6食)

テーマ：幼年美術のより良き指導を求めて

テーマ：表現を通して子どもを伸ばす

後期：8月6日(水)～8月7日(木) 1泊2日

会場：京都会館第2ホール

定員：1,000人

参加費：900円

宿泊費：1,500円(1泊2食)

講師：長谷川、林、井坂とく(三重幼美)、  
小畑美代子(広島)

## ■第2回幼年美術夏季大学(昭和40年)

期日：8月28日(土)～8月30日(月)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：350人

テーマ：幼年美術のより良き指導を求めて

講師：長谷川雅司(大阪幼美会長)、林健造

## ■第7回幼年美術夏季大学(昭和45年)

前期：8月4日(火)～8月6日(木)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：300人

後期：8月7日(金)～8月8日(土)

会場：京都会館第2ホール

定員：1,000人

講師：長谷川、林、井坂、小畑

## ■第3回幼年美術夏季大学(昭和41年)

期日：8月8日(月)～8月10日(水)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

テーマ：表現のよろこび

講師：長谷川、林、太田昭雄(東京幼美)

## ■第8回幼年美術夏季大学(昭和46年)

前期：8月6日(金)～8月8日(日)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

テーマ：子どもの作品の見方とその指導

後期：8月9日(月)～8月10日(火)

会場：京都会館第2ホール

定員：1,000人

講師：長谷川、林、井坂、小畑

## ■第4回幼年美術夏季大学(昭和42年)

前期：8月3日(木)～8月5日(土)

会場：比叡山延暦寺会館

後期：8月5日(土)～8月7日(月)

会場：比叡山延暦寺会館

テーマ：表現をたかめる

講師：長谷川、林、太田

## ■第9回幼年美術夏季大学(昭和47年)

前期：8月5日(土)～8月7日(月)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

参加費：1,500円

宿泊費：4,450円(2泊5食)

テーマ：幼年美術の原点

後期：8月8日(火)～8月9日(水)

会場：京都会館第2ホール

講師：長谷川、林、井坂、小畑、黒川建一

## ■第5回幼年美術夏季大学(昭和43年)

期日：8月3日(土)～8月5日(月)

会場：比叡山延暦寺会館 定員：350人

参加費：1,000円(幼美会員費：300円含む)

宿泊費：2,600円(2泊5食)

講師：長谷川、林

## ■第6回幼年美術夏季大学(昭和44年)

前期：8月4日(月)～8月6日(水)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：350人

## ■第10回幼年美術夏季大学(昭和48年)

前期：8月6日(月)～8月8日(水)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：300人

テーマ：幼年美術の歴史と未来

後期：8月9日(木)～8月10日(金)

会場：京都会館第2ホール

定員：1,000人

講師：長谷川、林、井坂、小畑、黒川

#### ■第11回幼年美術夏季大学(昭和49年)

前期：8月5日(月)～8月7日(水)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

参加費：2,500円

宿泊費：6,400円(2泊5食)

テーマ：総合的美術教育 — その意味と具体 —

後期：8月8日(木)～8月9日(金)

会場：京都会館第2ホール 定員：1,000人

参加費：2,500円 宿泊費：3,200円(1泊2食)

講師：長谷川、井坂、小畑、黒川、奥山淑子(京都)、  
耕田晃(三重)

#### ■第12回幼年美術夏季大学(昭和50年)

前期：8月4日(月)～8月6日(水)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

参加費：3,300円

宿泊費：7,100～10,100円

テーマ：総合とその実践

後期：8月7日(木)～8月8日(金)

会場：京都会館第2ホール

定員：1,000人

参加費：2,800円

宿泊費：4,200円

講師：長谷川、林、井坂、小畑、黒川、奥山、  
耕田

#### ■第13回幼年美術夏季大学(昭和51年)

前期：8月2日(月)～8月4日(水)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

テーマ：幼年美術の考え方とその実践

後期：8月5日(木)～8月6日(金)

会場：京都会館第1ホール

定員：2,000人

講師：長谷川、黒川、林、井坂、小畑、耕田、

奥山

\*岡田会長の逝去に伴い、後任会長、松井清人氏  
に

#### ■第14回幼年美術夏季大学(昭和52年)

前期：8月1日(月)～8月3日(水)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

テーマ：幼年美術の考え方・見方・育て方

後期：8月4日(木)～8月5日(金)

会場：京都府立勤労会館

定員：1,300人

講師：長谷川、黒川、小畑、奥山、井坂、  
池川敏幸(四国幼美会長)、菅玲子(九州幼美)

#### ■第15回幼年美術夏季大学(昭和53年)

前期：7月30日(日)～8月1日(火)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

参加費：4,500円

宿泊費：8,200～11,600円

後期：8月2日(水)～8月3日(木)

会場：京都府立勤労会館

定員：1,300人

参加費：4,000円

宿泊費：5,000円

講師：長谷川、黒川、小畑、奥山、井坂、池川、  
菅、耕田

\*第1回夏季大学幼年美術の会ヨーロッパ研修旅行  
実施 以後、第7回まで毎年実施

#### ■第16回幼年美術夏季大学(昭和54年)

前期：8月6日(月)～8月8日(水)

会場：比叡山延暦寺会館

後期：8月8日(水)午後～8月10日(土)

会場：比叡山延暦寺会館

定員：400人

参加費：4,500円

宿泊費：8,200～11,600円

\*定員、参加費用、会場共、前期・後期共通

テーマ：幼年美術の考え方・見方・育て方

— いきいきしたところを育てる造形活動 —

講師：黒川、池川、長谷川、林、小畑、奥山、菅

#### ■第17回幼年美術夏季大学(昭和55年)

前期：8月4日(月)～8月8日(水)  
会場：比叡山延暦寺会館  
後期：8月8日(水)～8月10日(金)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：400人  
参加費：5,500円  
宿泊費：9,000～12,500円  
講師：長谷川、黒川、小畑、奥山、井坂、池川、菅、耕田、畠山三代喜(元・北海道幼美会長)

■第18回幼年美術夏季大学(昭和56年)

期日：8月4日(火)～8月6日(木)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：450人  
\*この回より前期月後期を廃し統一  
参加費：5,700円  
宿泊費：9,000～12,500円  
講師：長谷川、黒川、小畑、畠山、池川、耕田、奥山、菅、井坂、山田良定(故・滋賀幼美会長)、木村量好(現・副会長)

■第19回幼年美術夏季大学(昭和57年)

期日：8月4日(水)～8月6日(金)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：450人  
テーマ：幼年美術の考え方・見方・育て方  
— 楽しく、豊かで、ひきしまった表現 —  
講師：長谷川、黒川、小畑、畠山、池川、耕田、奥山、井坂、山田、木村、林

■第20回幼年美術夏季大学(昭和58年)

期日：8月3日(水)～8月5日(金)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：400人  
テーマ：幼年美術の考え方・見方・育て方  
— 豊かな人間性を育てる造形活動 —  
講師：長谷川、黒川、林、池川、耕田、奥山、山田、木村、畠山

■第21回幼年美術夏季大学(昭和59年)

期日：8月6日(月)～8月8日(水)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：400人  
参加費：6,000円  
宿泊費：12,100～15,100円  
テーマ：幼年美術の考え方・見方・育て方  
— 豊かな人間性を育てる造形活動 —

講師：長谷川、黒川、林、池川、耕田、奥山、山田、木村、畠山、小畑、菅

●昭和59年幼年美術夏季大学京都研究集会

期日：8月9日(木)  
会場：大谷ホール

■第22回幼年美術夏季大学(昭和60年)

期日：8月5日(月)～8月7日(水)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：400人  
講師：長谷川、黒川、林、池川、耕田、奥山、山田、木村、畠山、小畑、菅

●昭和60年幼年美術夏季大学京都研究集会

期日：8月8日(木)  
会場：大谷ホール  
\*第8回夏季大学幼年美術の会海外研修旅行中国友好の旅(ヨーロッパから変更)以降第12回まで実施

■第23回幼年美術夏季大学(昭和61年)

期日：8月4日(月)～8月6日(火)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：400人  
講師：長谷川、黒川、林、池川、耕田、奥山、山田、木村、畠山、小畑、菅、太田

●昭和61年幼年美術夏季大学京都研究集会

期日：8月7日(水)  
会場：京都商工会議所

■第24回幼年美術夏季大学(昭和62年)

期日：8月5日(水)～8月7日(金)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：300人  
参加費：6,000円  
宿泊費：16,100円  
テーマ：幼年美術の考え方・見方・育て方  
— 一人ひとりの心を育てる造形活動 —

講師：前回と同じ

●昭和61年幼年美術夏季大学京都研究集会

期日：8月8日(土)  
会場：京都商工会議所

■第25回幼年美術夏季大学(昭和63年)

期日：8月4日(木)～8月6日(土)  
会場：比叡山延暦寺会館  
定員：300人  
講師：前回と同じ

●昭和63年幼年美術夏季大学京都研修会

期日：8月7日(日)

会場：京都商工会議所

\*「幼年美術のの研究 — 幼年美術の会25周年記念誌 —」発行(編集：美育文化協会)

■第26回幼年美術夏季大学(平成1年)

期日：8月8日(火)～8月9日(水)

会場：本能寺文化会館

定員：300人

\*会期2泊3日→1泊2日に会場変更

参加費：6,000円

宿泊費：11,000円(1泊)

講師：松井、長谷川、黒川、奥山、木村、藤瀬、廣富 靖海、耕田、園田、中西聡子、田中敏子、河野ルイ、安食美子、荒井まき子

●平成1年幼年美術京都研究集会

期日：8月10(木)

会場：京都商工会議所

\*第12回幼美海外研修旅行会、この回で終了

■第27回幼年美術夏季大学(平成2年)

期日：7月30日(月)～7月31日(火)

会場：本能寺文化会館

定員：300人

参加費：7,500円

宿泊費：11,000円

講師：第26回講師陣に高橋系吾(東京幼美会長)、池川、井坂、山田良定、菅、他

●平成2年幼年美術京都研究集会

期日：8月1日(水)

会場：京都商工会議所

■第28回幼年美術夏季大学(平成3年)

期日：8月11日(日)～8月12日(月)

会場：本能寺文化会館

定員：300人

参加費：7,500円

宿泊費：12,000円

講師：井坂、山田、長谷川、平井洋子、奥山、耕田、木村、廣富(大阪、京都中心に)

●平成3年幼年美術京都研究集会

期日：8月10日(土)(夏季大学の前日に)

会場：京都商工会議所

■第29回幼年美術夏季大学(平成4年)

期日：8月6日(木)～8月7日(金)

会場：本能寺文化会館

定員：300人

講師：前年に同じ

●平成4年幼年美術京都研究集会

期日：8月8日(土)

会場：京都商工会議所

■第30回幼年美術夏季大学(平成5年)

期日：8月5日(木)～8月6日(金)

会場：京都教育文化センター

定員：300人

講師：30回記念 前年講師に各地区幼美会長 池川、畠山、磯谷(愛知)、高橋、東岡(九州)、縄稚(福山)

●平成5年幼年美術京都研究集会

期日：8月4日(水)

会場：京都教育文化センター

■第31回幼年美術夏季大学(平成6年)

期日：8月8日(月)～8月9日(火)

会場：本能寺文化会館

定員：220人

参加費：8,000円

宿泊費：12,000円

テーマ：幼年美術の考え方・見方・育て方 —一人ひとりの心が育つ「表現」—

講師：廣富、木村、奥山、井坂、長谷川、山田、耕田、谷岡、藤瀬、河野、安食、荒井

●平成6年幼年美術京都研究集会

期日：8月10日

会場：本能寺文化会館

■第32回幼年美術夏季大学(平成7年)

期日：8月8日(月)～8月9日(火)

会場：京都教育文化センター

定員：220人

講師：前回にほぼ同じ

\*松井会長体調不調のため、廣富靖海、会長代行に

●平成7年幼年美術京都研究集会

期日：8月1日(木)

会場：京都教育文化センター

■第33回幼年美術夏季大学(平成8年)

期日：8月8日(火)～8月8日(木)

会場：本能寺文化会館

定員：250人  
参加費：宿泊なし(昼2食付) 10,000円/1泊2日(4食付) 20,000円/2泊3日(6食付) 30,000円  
●平成8年幼年美術京都研究集会  
期日：8月9日(金)  
会場：本能寺文化会館

■第34回幼年美術夏季大学(平成9年)  
期日：8月7日(木)～8月8日(金)  
会場：本能寺文化会館  
定員：250人  
●平成9年幼年美術京都研究集会  
期日：8月6日(水)  
会場：本能寺文化会館

■第35回幼年美術夏季大学(平成10年)  
期日：8月7日(金)～8月8日(土)  
会場：桃陵乳児保育園(公開保育)、本能寺文化会館(研修会)  
定員：250人

■第36回幼年美術夏季大学(平成11年)  
期日：8月6日(金)～8月7日(土)  
会場：光徳幼稚園(公開保育)、本能寺文化会館(研修会)  
定員：250人  
講演：林健造氏

■第37回全国幼年美術夏季大学(平成12年)  
期日：8月4日(金)～8月5日(土)  
会場：桃陵乳児保育園・桃陵幼稚園(公開保育)、池坊学園(研修会)  
定員：250人  
参加費：10,000円(宿泊は各自)  
講演：板良敷敏氏(文部省教科調査官)

■第38回全国幼年美術夏季大学(平成13年)  
期日：8月10日(金)～8月11日(土)  
会場：あけぼの保育園(公開保育)、池坊学園(研修会)  
定員：250人  
テーマ：幼年美術の考え方・育て方  
—一人ひとりの心が育つ「表現」—  
講演：和久洋三氏(おもちゃデザイナー)  
研究発表：太田昭雄(東京・こひつじ幼稚園)

■第39回全国幼年美術夏季大学(平成14年)  
期日：8月9日(金)～8月10日(土)  
会場：東福寺保育園(公開保育)、池坊学園(研修会)  
定員：250人  
講演：亀谷陽三氏(京都教育大附属小学校)  
研究発表：阪本真喜子(じろうまる保育園)

■第40回全国幼年美術夏季大学(平成15年)  
期日：8月8日(金)～8月9日(土)  
会場：池坊学園、亀岡保育園(公開保育)  
定員：250人  
参加費：10,000円、レセプション：3,000円  
講演：神長美津子氏(文部科学省教科調査官)  
記念座談会：林健造、黒川建一、井坂とく、奥山淑子、司会/耕田晃  
\*第40回記念夏季大学として「美育文化」で特集号発行

■第41回全国幼年美術夏季大学(平成16年)  
期日：8月9日(金)～8月10日(土)  
会場：池坊学園(研修会)、亀岡保育園・大本本部(公開保育・研修会)  
講演：高野昌昭氏(音あそびの会代表)

■第42回全国幼年美術夏季大学(平成17年)  
期日：8月5日(金)～8月6日(土)  
会場：池坊学園(研修会)、広野幼稚園・保育所(公開保育)  
テーマ：幼年美術の考え方・育て方 一人ひとりが育つ「表現」  
—生きる力に結びつく実践—  
講演：野中真理子氏(映画監督)

■第43回全国幼年美術夏季大学(平成18年)  
期日：8月4日(金)～8月5日(土)  
会場：池坊学園(研修会)、淀白鳥保育園(公開保育)  
講演：木代喜司氏(彫刻家・京都教育大学名誉教授)

■第44回全国幼年美術夏季大学(平成19年)  
期日：8月10日(金)～8月11日(土)  
会場：池坊学園(研修会)、うずら保育園(公開保育)  
講演：鯨岡峻氏(中京大学教授)

■第45回全国幼年美術夏季大学(平成20年)  
期日：8月8日(金)～8月9日(土)  
会場：ガレリアかめおか(研修会)、亀岡保育園(公開保育)

テーマ：幼年美術の考え方・育て方 一人ひとりが育つ『表現』  
 一心をひらき心をつなぐ実践 —  
 講演：上田正昭氏(京都大学名誉教授)

■第46回全国幼年美術夏季大学(平成21年)  
 期日：8月7日(金)～8月8日(土)  
 会場：立命館小学校  
 講演：奥村高明氏(文部科学省教科調査官)

■第47回全国幼年美術夏季大学(平成22年)  
 期日：8月6日(金)～8月7日(土)  
 会場：立命館小学校  
 講演：福岡亮治氏(京都市青少年科学センター)

■第48回全国幼年美術夏季大学(平成23年)  
 期日：8月6日(土) \*1日開催となる  
 会場：立命館小学校  
 講演：阿部恵氏(道灌山学園)  
 緊急特別講演：倉本信之氏(東北幼美事務局)

■第49回全国幼年美術夏季大学(平成24年)  
 期日：8月4日(土)  
 会場：立命館小学校  
 講演：岡田京子氏(文部科学省教科調査官)  
 パネルディスカッション：奥山、黄瀬、羽溪

■第50回全国幼年美術夏季大学(平成25年)  
 期日：8月3日(土)  
 会場：龍谷大学深草キャンパス  
 パネルディスカッション：  
 吉永幸司氏(京都女子大学教授・同附属小学校校長)  
 大橋功氏(岡山大学大学院准教授)  
 黄瀬、羽溪、立石



第10回幼年美術夏季大学(後期)

第20回幼年美術の会・夏季大学(後期)御案内

幼美夏季大学も第20回を迎えて、今年も前期(比叡山会館)と後期に分けて開催いたします。御多用中ながら何卒下記会場へ御来場の程御案内致します。

夏季大学(後期) 会場 大谷ホール (京都駅前 東本願寺北側)	
午前	午後
9:00~9:20 受付	13:00~13:10 祝辞 浅部 宏妙美術文化協会
9:20~9:50 開講式 基調講演 会長 松井 清人	13:10~15:00 (A) 企画 北村和子、松村喜美子(京都) 司会 栗津恵、河野ルイ
9:50~10:20 研究発表(A) 実践報告と話し合い 中井 清津子(滋賀)	スライドによる 幼児画の 見方・導き方 司会 石川欣一 木村暎好
10:20~10:50 研究発表(B) 実践報告と話し合い 信ヶ原 千恵子(京都)	15:00~15:30 助言 藤瀬 敬 福井 勇 講演「保育の中の造形活動」 川 畑 マサ(大阪)
11:00~12:00 特別講演「主体性をのぼす子供の 浪花 博(仏教大学、心理学)	15:30~16:00 講演「目と心と頭と手」 副会長 西田 秀雄
12:00~13:00 昼食 幼美展及世界児童画展鑑賞	16:00~16:30 まとめ講演 京都支部長 早田嘉之 閉 講

昭和58年7月  
 御手数ながら御来場の節本状を受付へ御示してください。

幼年美術の会  
 電話 (671) 6976

第30回幼年美術夏季大学(後期)



幼年美術の会創立役員

- 会 長：岡田 清(京都市指導主事)  
 副 会 長：松井 清人(京都学芸大学)  
           曾根 靖雅(大阪市指導主事)  
 顧 問：早田 嘉之(京都府指導主事)  
           古野 由男(京都市指導主事)  
           北村 又次(京都市指導主事)  
           和住 昭子(京都市指導主事)  
           若井 英夫(京都衣笠小学校校長・京都市図工研究会会長)  
           長谷川 肇(南開化小学校校長・京都市図工研究会副会長)  
           高日 明(京都府向日町向日小学校校長、京都府図工研究会会長)  
           西 ヒサノ(翔鸞幼稚園園長)  
           柏木 淑子(京極幼稚園園長)  
           長谷川雅司(大阪市指導主事)  
           清水 桔梗(常盤会短期大学)  
           津村節津子(愛珠幼稚園園長)  
           福田 房子(五条幼稚園園長)  
 常任委員：富田 民治(大阪府指導主事)  
           西田 秀雄(京都市修学院小)  
           河辺日ノ木(大津市指導主事)  
           藤瀬 敬(神戸市指導主事)  
           坂元 一男(奈良学芸大学)  
           松下 英雄(和歌山市紀伊小学校校長)  
           井手 則雄(白梅短期大学)



初代会長 岡田 清 先生



当時副会長 二代目会長 松井 清人 先生



## 美術は必要なの

木代 喜司

読み、書き、算盤は生きるのに必要だけれど、美術は必要なの？と言われてたら、どう答えればよいのだろう。人間はパンのみに生きるにあらずと同じように読み書き算盤のみで生きているのではないはずだ。けれど美術は人間が生きていく上にどれだけ必要なのか、現代のように何事も数字で明らかにしなければ納得しない時、美術の必要性を情趣の安定、創造性と語っても仲々理解が得られない。私自身、教員として美術の指導にあたってきたが、一体、私の指導が教え子達の人生にどれだけ生きているのか甚だ疑問だ。成果のはっきりしない、数字として答えられない結果に悔しい思いをする。今私は60才以上の人々の造形教室を行っているが、皆、非常に楽しそうに制作をしておられる。「こんなに集中する時間は他にありません。3時間の制作時間があつという間で、制作後の満足感がたまらなく快いです。」と語られる。「次に何を作ろうかと街を歩いてもあちこち見て考えられます。」と語られる顔を見るとよかったなあと思う。これが美術の効力なのかなあと思ったりする。しかしこれだけでは現在の特に行政に携わっておられる人を納得させることは困難である。このハードルを越すのには多くの事例と共に、脳科学を初めとする科学との連携による証明が必要であろう。美術をその専門家だけの議論からより広く科学的証明の道も探らなければならない時だと思われる。

(きしろ よしじ・全国幼年美術の会副会長)

## 私と幼美

奥山 淑子

私の側には、いつも幼美があり、本当に良き指導者に恵まれていたと思います。

私が入学した小学校は、美術教育研究校で、京都府指導主事（後・幼年美術の会創立役員）の早田嘉之先生が指導に来られていました。そこで「田植え」の絵が、早田先生の目に留まり、文部大臣賞を頂くこととなりました。その事で絵を描くことが、好きになるきっかけとなりました。3年生で京都へ転校、そこが又、美術教育の盛んな所であり、美術教室へ通いだしました。福井・田中先生方（後・幼年美術の会委員）の指導で、1年を通した嵐山の四季の変化を“ぺんてる”パスで表現いたしました。その頃、指導主事をしておられた岡田 清先生（後・幼年美術の会初代会長）も、そこへ時々来られていました。岡田先生から「金次郎」を描くように言われ、嫌々ながらも描いた絵が、「うちわ」となってアメリカに行った時の事が、心に大きく残っています。大学時代、新しい保育をあちこち見て回った中で、大阪市指導主事（後・幼年美術の会創立役員）の曾根靖男先生と大阪市立幼稚園の川畑園長先生のメトーゼ保育、京都市公立園の中西先生の保育に感銘を受け、こんな保育をしたいと心に決め、幼稚園に就職いたしました。隣の保育園には、廣富靖海先生（現・全国幼美会長）の指導を受けられた主任の先生がおられ、特に乳児保育の勉強をさせていただきました。

指導主事を退職され、幼年美術の会を立ち上げられた岡田清先生のもと、幼美の実験園として、保育実践をしてまいりました。そんな中から、今を背負って立つ幼児教育者が数人育っている事も嬉しい限りでございます。私は幼少の頃から、現在に至るまで、数々の先生方に出会い、又、影響を受けた事に、感謝の気持ちを忘れず、これからも続いていく幼美に関わり、少しでも恩返ししたいと思っています。

(おくやま としこ・全国幼年美術の会副会長)

「なんかいい感じ」を求めて

黄瀬重義

私は今55歳。幼年美術の50年は私の幼年期からの50年と重なっています。小学校の一年生になって初めて四つ切りの真っ白い画用紙に、真っ新のクレヨンで絵を描いたとき、大きくなったら画家になりたいと思いました。そして50年が過ぎました。今もその時の自分と何も変わっていません。白い画用紙にクレヨンを走らせ、思いのままに線を描いていくと形が後から生まれてきます。求めているのはいつも「なんかいい感じ」です。

大きくなったら画家になるという夢は叶ってはいないのですが、55歳になっても描くことを続けているのですから夢は叶っているようにも思います。ということは描くことはいつでもどこでもだれでもが取り組めることだったのです。努力して叶える必要はなく描きたいときに描くただそれだけのことなのです。

この描くというとてもシンプルですてきな活動を、幼年期の子どもから奪ってはいけません。すべての人間が描くことを求めているかどうかは確信できませんが、すべての子どもが描くことを求めている自信はこれまでの教育活動の経験から確信できます。だからこそ幼年美術は大切なのです。

(きせ しげよし・全国幼年美術の会常任委員)



「なんかいい感じ」泥インク(紙皿に粘土で落書き)



# 幼年美術の研究

幼年美術の会25周年記念



幼年美術の会 財団法人美育文化協会

## 幼年美術の研究

幼年美術の会25周年記念

<p>表紙：“なわ飛び” アミイ・コール アメリカ 7歳女</p> <p>裏表紙：“ねこ” 山下香織 5歳</p>	
---	--

---

### あすの保育に役立つ20の実践事例 8-47

浅川 美枝	安食 美子	奥山 淑子	加茂川美津江
倉本まり子	黒崎 信江	後藤やす子	鈴木 美樹
田迎 春美	豊田ゆり子	中村 美子	西洞院 淑
濱崎 典恵	藤田 洋子	文屋 正道	星野由利子
南方幾久子	村上優美子	山口 令子	山本 照子

---

<b>時評</b>	表現教育再考……………黒川 建一……48
<b>鑑賞</b>	安野光雅・絵本博覧会……………稲垣 達彌……50

---

### 「幼年美術の研究」25年の主要論文

■ 一人ひとりの心を育てる造形活動……………松井 清人……56	■ 子どもの芸術性を育てる造形活動……………早田 嘉之……58
■ 心豊かに生きよう。育てよう……………松本 洋……60	■ 楽しく・豊かで・ひざしまった表現……………西田 秀雄……62
■ 一人ひとりの心を育てる造形活動へ……………故 森 市松……64	■ 造形(絵画製作)のねらい……………磯谷 桂治……66
■ 表現としての絵……………黒川 建一……68	■ 幼い子どもの絵をこんな風に見、考えたいが……………石塚 博……70
■ 二・三歳児の造形保育……………園田 正治……72	■ 三歳児のおそびの中での造形活動……………長野 巨……74
■ 造形指導について保育者に望むこと……………畠山三代喜……76	■ 想像と創造……………藤瀬 敬……78
■ 表現以前の指導……………縄雅 輝雄……80	■ 子どもたちの作品展にみとれて……………耕田 晃……82
■ 経験画の指導……………久山 章……84	■ お話の絵の指導ポイント……………林 健造……86
■ 幼児の版画指導……………谷井 照夫……88	■ 幼児の粘土活動……………山本 学……90
■ 表現のよるこび……………松田 末治……92	■ 幼年美術の会の精神……………故 岡田 清……94

25周年記念誌 1988年6月1日発行

## 生きる力を育む全国幼美の会

谷岡経津子・池村智津子(文)

「全国幼年美術の会の三重支部三重研修セミナーにいらっしゃいよ」と、三重幼美のT支部長様からお誘いいただき、私はクラスの28人全員の作品を携えて会に臨んだ。約100人もの参加者の作品を通じての活気溢れる討議に圧倒された。参加者全員の熱い思いが伝わる素敵な研修会であった。これが、5年前の全国幼美との運命的な出会いである。

その後ご縁があり、三重研修セミナー及び全国幼美の会夏季大学において発表の機会をいただいた。長年、幼稚園教諭として子どもたちと共に過ごし、特に造形遊びが子どもたちにもたらしたものについて述べさせていただいた。今、教育の中で話題になっている〈子どもが主体の保育〉は、造形遊びを通じて達成できると考える。造形遊びに真剣に取り組めば、子どもや子ども同士の関係は、まるで奇跡のように変わるのだ。そして、もう一つ日本の保育界で話題になっている〈保育者のやりがい〉についても、そんな子どもたちとの生活の中で、保育者も喜びに満たされやりがいも見い出していくであろう。

「全国幼年美術の会」は、子どもたちにとってはもちろんのこと、私たち保育者に対しても生きる力を育み続けてきた大変貴重な会であり、感謝の気持ちは言葉では言い尽くせないものがある。今後も、ずっとずっと共に学ばせていただきたいと思う。

(たにおか ふつこ・全国幼年美術の会常任委員) (いけむら ちづこ・三重幼年美術の会運営委員)



## 私の学びの場〈幼美〉

羽溪 了

20年前、幼児教育や美術教育と無縁であった私は、作家としての業績で神戸女子大学にご縁をいただきました。当初は初等教育の実技科目担当でしたが、幼児教育にも力を入れるとの学内事情で、この分野との関わりが生まれました。家庭的にも子どもの成長期と相まって、保育の世界への関心が高まりました。しかし、書物を通しての学びが中心で、リアルな学びは我が子と大学の附属園くらいでした。これでは学生達の学びのサポートとしては不十分である、何処か自身の学びの場所はないものかと、色々探し参加をしてみました。〈幼美〉との出あいは、そのような中から生まれました。

では何故〈幼美〉だったのか？①現場の先生方やそれを後押しする方々の損得なしの手作りによる学びの場である。②妙な専門家が仕切り、あげ奉られる場ではない。③子どもの発達を重視し、幼・保から小学校低学年、所謂〈幼年〉を対象にしている。この3点です。そして「絵を読む会」。参加の先生ご自身が関わる子どもの絵を持ち寄り、皆でそれを観ながら、子どもの生活や心に思いを寄せて保育や教育を語り合う。この学びが最大の魅力でした。「絵を読む会、なくして幼美なし」と強く思っています。

2年前、現在の大学への移籍を機に、京都幼美の先生方からお誘いをいただき、と同時に機関誌『幼年美術』の編集を仰せつかりました。私の役割は唯々、自分にとって素晴らしいこの学びの場を大切に守り、より多くの先生方とご縁の輪を広げることのみです。

(はたに さとる・全国幼年美術の会常任委員・機関誌編集委員)

## 幼美との歩み

安食 美子



第2回 幼児画研修会案内

私がまだ現職のころ、6月1日と言えば恒例になっていることがありました。錦通りを抜けたぺんてる（株）の当時の京都事務所に夏季大学の申し込みに行ったことです。その頃は研修希望者が多くて各園の参加者は3名以内と決められていましたので・・・。

比叡山・京都会館・別館・本能寺会館・池坊学園・立命館小学校そして本年度の龍谷大学と会場の変遷はあっても、元勤務先広野幼稚園では、幼美夏季大学は重要な研修の場を占めていました。全国幼美は今年50回の記念すべき回を迎えますがその間研究発表・公開保育を何度か引き受けたことも感慨深いことです。

その縁からいつしか京都幼美の事務局を引き受けることになり、今年度は6月29日第16回幼年美術の会京都セミナーを開催しました。今まで全国幼美の前後に、同じ会場での開催でしたので皆様には全国幼美の一部として、京都幼美が混同されているのを常々感じていたのですが・・・。京都幼美としての独自性と日程とを考慮しつつ支部としてスタートしたのは16年前のことでした。

京都幼美を立ち上げるに至って、初代幼美会長 岡田清先生のもとで研鑽された奥山淑子現幼美副会長を中心に、元桃林幼稚園浦上ルイ先生、安食の3人で相談。事務局をどこにおくか、スタッフをどうするか、研修会をどうするか等々具体的に決めることがいっぱいです。事務局は当時左京区木ノ本町にあった浦上先生の絵画教室に。ぺんてる（株）の当時の事務所 文紙会館にもよくお世話になりました。幸いにも熱心なスタッフが集まり7名は現在も活躍中です。完全に全国幼美と独立し第12回京都研修セミナーとして開催したのが平成21年。約10名のスタッフが月1度京都の桃陵保育園を拠点に集まり造形のことだけではなく、子どもたちのこと、毎日の保育のこと、実技研修など時を忘れて話し合ったものです。

今でも印象深く記憶に残っていることは、予定していた亀岡保育園での公開保育が台風の為子ども達が登園できず急遽年齢別の分科会が京都幼美のスタッフ中心に設定され、熱い討議で盛り上がったことでした。

16年の京都幼美の歩みの中で講演等でお世話になった諸先生方に感謝の意を込めて一部になりますが列記させていただきます。

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>* お話と実技 生涯子ども<br/>身近にあるもので（子どもたちと生きる）<br/>元文教短大助教授 中田隆幸先生</li> <li>* 講演 美しいものを知ろう<br/>大阪芸術大学短大教授 藤波 晃先生</li> <li>* 講演 お話ワク湧く<br/>京都外国語大学教授 福井直秀先生</li> <li>* 講演 学ぶこと変わる事<br/>京都教育大学付属小 亀谷陽三先生</li> <li>* 講演 絵本 雷の落ちない村（三橋節子）<br/>日本画家 鈴木靖将先生</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>* 講演 こんきのんきげんきが育つ造形活動<br/>甲賀・湖南人権センター 黄瀬重義先生</li> <li>* ビデオ・ライブラリー 幼児の育ちと造形<br/>花園大学専任講師 奥山淑子先生</li> <li>* 講演 絵本 子どもたちはどこに<br/>日本画家 龍谷大学短大 羽溪 了先生</li> <li>* 講演 木育によるワークショップ<br/>京都女子大学准教授 矢野 真先生</li> </ul> |
|--|---|

その他現スタッフによる実技研修は、受講される先生方のご希望を取り入れて時間内にできるだけ数多くの実技が体験出来るようにと考慮しています。子どもの絵から保育を探るの分科会では当初絵を持参する方がほとんど無い状態だったのも思い出されます。

現在のスタッフは、現職とベテランのOG・大学の先生・現役の芸術家がうまくかみ合って会を進めています。いかにして若いスタッフの育成とうまく世代交代ができるかが今後の幼美の課題となることでしょう。

幼美の未来ある発展を祈って・・・。

（あんじき よしこ・京都幼年美術の会事務局）

## 滋賀幼美は「ちいさく」「ゆっくり」「なごやかに」続けています。

黄瀬 重義

地球規模の大きな変化の渦に巻き込まれている現在社会の中で、50年前の子どもたちには想像すらできなかった物や事に今の子どもたちは埋もれて生きています。

そんな激動の社会の中であって、50年の長きにわたって常に幼年の子どもの日常をきちんと受け止めることをぶれることなく続けてこられた全国幼年美術の会に敬意を表します。

わたしたち滋賀幼美の会は、全国幼年美術の会の一年後に活動が始まりました。日常の保育と教育の中で見落とされがちな小さな喜びと楽しさを見つけ合い分かち合う会として49年続けてきました。

会を創り育ててこられた多くの先人たちの思いを大切に引き継ぎながら、滋賀の保育と教育にかかわる者が集い、学び合う場として、小さな取り組みではありますが今日にいたっています。

今から50年前の1963年、滋賀県では重症心身障害者施設「びわこ学園」が創設されています。この施設は、戦後の混乱期の中で池田太郎さん、田村一二さんとともに、日本の障害者福祉を切り開いた第一人者である糸賀一雄さんに因るものです。糸賀一雄さんの「この子らを世の光に」の言葉は障害のある子どもたちこそ世の光という意味で知られています。けれども、戦後の混乱の中で放置されていたのは障害のある子どもたちだけではなく、親のいない子、家の無い子なども含まれていました。支援を要する社会から放置されたすべての子どもを世の光として、近江学園や信楽青年療などの施設が創設されました。弱い立場にいる子どもたちこそ世の光として大切にされる社会であることを目指したのです。

滋賀幼美の取り組みは、この障害者福祉の取り組みと無関係ではなかったはずですが、田村一二さんは美術教育においても大きな足跡を残しておられます。

世の中が子どもたちに「より速くより多くより大きく」を求めてきたことに疑問を持った先人たちは、「みんないっしょにゆっくりと、少なくとも小さいものを大切に」する生き方を幼年美術の取り組みで伝えてきました。

滋賀幼美は、すべての子どもたちが内に秘めている無限の可能性を信じてその成長を大切に見守ろうとする人たちの情報交換の場として研修会を開催しています。幼年の子どもといっしょに過ごすことで大人もまた自らの無限の可能性を思い出し成長していくことを学びます。そのために、子どもの絵にじっくり向き合う時間と、子どもと同じように造形表現に浸れる時間を大切に研修会を企画実施しています。

人生の中でもっとも大切な幼年期は、人生の中でもっとも忘れられてしまう時期でもあります。人の一生を振り返ったとき、その人の幼年期について多くが語られることはまずないでしょう。けれども、人の生き方の基本形が幼年期に形成されることは間違いないことです。幼年期だからこそ、幼年期ならではの活動を！ これからも向き合っていきます。

体で感じて心確かめ合っている 土の色と土の感触  
茶色と黄土色と灰色の粘土をどろどろにしたら 絵の具のようになったよ  
「何を描いているの？」なんて聞かないでね。  
大人はすぐに美を追い求めるけれど  
本当は、美が私たちの活動を追いかけてくるの。  
一瞬、一瞬の色と形の語らいを楽しんでいるの。  
「何のために？」なんて聞かないでね。  
答えている間に、すてきな「今」が通り過ぎてしまうから。

(きせ しげよし・滋賀幼年美術の会会長)



## 「輝け！子どもたち」人間美を追い求めた三重幼美の軌跡

谷岡 経津子

全国幼年美術の会が発足して半世紀、50周年を迎えることができたのは関係者の一人として喜ばしく感無量のものがあります。三重幼年美術の会は当時三重大学教授園田正治氏が全国幼美の常任委員をされていて京都での夏季大会の様子をみて、同じ想いをという考えのもと設立されました。三重支部は全国に先駆けて最初にできたわけです。昭和59年6月23・24日に開催された伊勢市神宮会館での第20回幼年美術の会三重支部夏季大学記念特集を紐解きながら、原稿をしたためています。

園田先生は私の大学時代の恩師でもあります。私事になりますが、高校時代医師になることを目指していました。その頃は国立の医学大学も少なく、挫折感をもって教育学部に入りました。それなら幼少の頃から好きであった絵画の道へということで画家であった別の教授の薫陶を受けていました。ある日、園田正治先生に1人呼び出され古い学舎の廊下で5メートルもある白布に三重幼美の会の文字を書くお手伝いをさせられたのです。今も絵描きと幼美の二足わらじが続いているのに人生の不思議さを感じてなりません。三重幼美は園田先生を慕って毎月、月例の研究会が津市の大川学園の一室で開催され20名程度の現役の保育士、幼稚園教諭の参加がありました。わら半紙による先生手作りの資料によるご指導は熱気をおびていました。当時の出席者で今も続けているメンバーは102歳の井坂とくさん、三重幼美の母でもある後藤やす子さん、若き前田和美さんと私が含まれています。一年間の研究のまとめとして三重支部夏季大会が開催されたのです。開催月の六月は梅雨の時期であり、庭の紫陽花が雨に濡れて鮮やかさをます神宮会館の会場は200名を越す大盛況が続きます。帰りには晴天になるのが通例でありました。巻頭文には次のように書かれています。『きらきらと大きく羽ばたく子どもたちの未来に夢を馳せるために、子どもの現在を見極めて行かねばなりません。現代の保育現場の抱えるいろいろな問題を気づかう中で、特に子どもたちひとりひとりが自らの内から燃え出る意思で事にぶつかる力、すなわち内発的動機づけによる自己表現能力を造形活動を通して求める勉強をして参りました。しかし、なかなか、建前通りにいかない悩みがあります。講師の先生方をお願いして、丁寧なアドバイスをいただき、実践者には素朴な苦しみや喜びを正直に披露する場にしたいと思えます』とある。毎年講師として愛知教育大学の黒川建一先生、横浜あゆみ幼稚園園長の松村容子先生、元宮城教育大学教授の井出則雄先生、十文字短大教授林健造先生、京都教育大学名誉教授・全国幼年美術の会会長の松井清人先生と、綺羅星の如く幼児表現の第一人者の方々の御出席いただき講話を拝聴することができたのです。

今年も海の日に第49回を開催する運びですが、表現を通して「人間美」の追求というコンセプトはいつも脈々と続いています。

(たにおか ふつこ・三重幼年美術の会会長)



第8回 幼年美術の会 三重支部 夏季大学



第9回 幼年美術の会 三重支部 夏季大学

## あがらの和歌山幼美

池永 満子

全国幼年美術の会、発足五十周年おめでとうございます。

全国幼美が発足されて、第一回目の夏季大学から、故前田博先生、故松下英雄先生、故山本学先生、現在も名誉会長でご壮健な谷井照夫先生方が参加されました。年々、和歌山からも参加者が多くなってきました。

夏季大学が五年目を迎えた頃、和歌山にも幼美の支部を作ってはどうかのお話がありました。幼児教育の重要さと絵画教育に対する関心が高まっていた頃でした。

第一回和歌山幼年美術の会（松下英雄会長）は、昭和四十四年十月に青い海が一望できる国民宿舎「深山荘」に於いて開催されました。一泊二日の計画で、会場も借り切ったことから、参加者の人数を危惧しましたが、五十人余りの出席者がありました。研修内容について、少しでも魅力のあるものと役員の方々は本当にご辛勞されたようです。そのお陰で、素晴らしい内容の研修会で、楽しく参加させていただいたことを記憶しております。

第八回から参加者の要望により、実技研修が取り入れられました。

第十回（前田博会長）は新和歌浦のホテルが会場でした。この頃には、保育園、幼稚園の先生方が、大勢参加されました。夕食後、役員の方々と膝を突き合わせて、夜遅くまで熱心に討論をしたことが、懐かしく思い出されます。

第二十回（杉本寿光会長）を迎えた昭和六十三年、西では瀬戸大橋が開通し、東では東京ドームが完成した年でした。会長は、和幼美の新聞に「作品の話し合いと言えば、出来栄ばかりを意識して単なる作品批評会のようになりかねない事がある。しかし、手前味噌になるが、和幼美は、子どもが、その作品を描いた過程や行動を十分理解した上での話し合いが持たれ、望ましい方向にある」と記載されていました。

第二十一回（谷井照夫会長）揺るぎない熱意を以って、会の充実、発展にご尽力され、和歌山幼年美術の会の名は全国的に益々高く評価されるようになりました。

又、版画教育は、子どもの写る喜びを写す喜びに変えていくことだと考えられ、幼児に適した遊びを指導していただきました。

第三十回（山本学会長）会長は「粘土を土粘土と言う人がいるが、この言葉ほど嫌いな言葉はない。粘土には『土』と言う字が付いているのに、わざわざ土粘土と言うことはない」「粘土は子どもにとって心を解放する大きな役割をしてくれる素材や」「五、六月に粘土で遊ぶのは、湿度もちょうど良く、子どもも裸足になって遊べてええんや」と粘土の素晴らしさについて教示して下さいました。

第四十回（和田達郎会長）四十周年記念誌を発刊しました。その中で会長は、「和歌山幼美は『心豊かな子どもを育てる事』を根底に研究会を続けてきました。約三十人の先生方が中心になって、自分たちで企画・運営している全くの民間の研究会であって、先輩方の礎や関係の方々のご支援を頂いて今日に至っています。この四十周年を節目として、伝統を受け継ぎ、幼児教育に重要な手助けができるよう充実・発展に努力していきたいと思っております。」と書かれていました。

今年は、第四十五回を迎え、南方秀昭会長が就任されます。今回も和歌山中央幼稚園で開催し、役員を含め三百人の参加者があります。基調講演に始まり、絵を読む会、昼食は会場園の手作りのカレーライスをいただきます。午後は、実践発表と毎年好評の実技研修が行われます。参加者全員がコンテ、絵の具、版画、製作、粘土に分かれ、童心に返り熱心に取り組みます。

毎回、幼美の会の研修後、アンケートにご協力をいただき、会の運営に反映しています。又、機関誌「和歌山幼美」を年一回、発刊しています。

和歌山幼年美術の会が、あがら（私たち）によるあがらの為の会でありたいと願い、これからも更に充実、発展していくように尽瘁しなければと、役員一同意欲を燃やしております。

（いけなが みつこ・和歌山幼年美術の会副会長）



和歌山 幼美 第1号



第1回 和歌山幼年美術の会

## 幼美の会に感謝

山中 卓

今から35年ほど前になりますか、故長谷川雅司先生（当時、大阪市教委指導主事）に急遽呼び出され、何も分らず、とにかく所定の場所まで出かけました。私と同様に呼び出されたであろう小学校教師・幼稚園の先生らしき人が20名近く集まりました。長谷川先生の発声で、「大阪幼年美術の会」の新しい出発という旨の挨拶があり、この時、長谷川先生が幼年美術の会役員であるという事を初めて知りました。

この呼びかけに応じた者、他数名がチャーターメンバーとなり、会長長谷川雅司で編成され、新生「大阪幼年美術の会」が誕生いたしました。私もその中の一員となり、幼児教育の充実、特に情操関係の創作活動に関わりを持たせて頂く事となりました。

大阪幼年美術の会の年間計画行事に夏季大学が生まれ、テーマ「豊かな人間性を育てる造形活動」とし、サブテーマ「明日に役立つ指導」を掲げ、講演・実技・公開授業の3部門別研修体制を取り、展開を始める事となります。故岡田清先生（幼年美術の会初代会長）、故松井清人先生（幼年美術の会二代目会長）に応援・ご指導をいただきました。

又、最近では、廣富靖海先生（全国幼年美術の会会長）、奥山淑子先生（全国幼年美術の会副会長）にも、大変お世話になり、お陰様で、現在も大阪幼美は、順調に歩み続けてきております。有難うございます。

私の全国幼美との係わりは、確か第5回の夏季大学への参加でした。私の中では、強烈な印象が残っています。大阪幼美の長谷川会長から「比叡山へ行って来い！」との命令で、決して積極的な参加ではありませんでした。涼しい山上での2泊3日を軽い気持ちと、物見遊山的な不真面目意識で登山いたしました。ところが、全国各地からの多勢な参加者は“やる気満々”。講師の話に一生懸命に耳を傾け、筆を走らす。意見交換時の折は、「口角泡をとばす」とはよく言ったもの、熱気むんむん。まさに私の想像していた以上の現状があり、自分の考えの甘さ、愚かさが恥ずかしく、情けなく、深みに落ち込みました。（反省しきり・・・）

幼児画の見方・感じ方・表現のさせ方等に、自分の意見の正統さを通し続ける解説者の意気込んだ態度は、流石のもの。今もって私の脳裏から消すことの出来ない情景です。

しかし、こんな張り詰めた場ばかりではなく、ホッとした面もありました。多勢での、にぎやかな食事、部屋一面の布団敷き、まるで修学旅行を思わせる懐かしいシーンも味わいました。朝の散歩もまた格別、杉木立の中を歩き、清々しい空気を味わい、とても気分爽快でした。どこからともなく色々な小鳥の鳴き声に、深山比叡の風情がただよう。とりわけ根本中堂内陣での高僧の法話もまた趣がありました。

回を重ねての幼年美術夏季大学は、私の生涯にひとつの道を教えてもらい、授けていただきました。幼児教育の重要性、きめ細やかな支援、幼児との交流の楽しさ等々、かけがえのない経験であり、学習でした。ただ数回の参加で、残念ながら、私的事情で全国幼美とは途中下車となりました。ただ大阪幼年美術の会からは、離れることなく、今年35回を迎えることが出来ました。長く続けてこられたのも、あの比叡山の夏季大学の影響が大きいように思われます。

現職を退いて早や20年、八十才を迎えようとしています。常に感謝しながらの毎日、「日々是好日」何とか元気で、楽しく孫たちと共に生活しています。

大阪幼美の会チャーターメンバーで、未だに活動しているのは、私一人となり、淋しい貴重な存在となりました。長谷川会長はじめ、物故者各位、引退者に御礼を申し上げるとともに、新陳代謝の新スタッフの頑張りで、大阪独特の味ある幼年美術の会の存続にこれからも精を出していきたいと思えます。幼児教育に未だに貢献できる喜びを感じながら、50周年を迎えた全国幼年美術の会の益々のご発展をご祈念し、又、皆様方の暖かいご指導、ご鞭撻を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

（やまなか たかし・大阪幼年美術の会会長）



第1回 大阪(阪神)幼年美術の会 秋季大学ご案内  
昭和53年11月25日 会場：阪急旅行会館

## 『私にとって幼美の会は』

西本 美智恵

「中国幼年美術夏季大学」に初めて受講を勧めてくださったのは、細田実先生(中国幼美二代目会長)でした。宮島で幼児画について熱心に研修している会で、千畳閣で膝を付き合わせて熱く語る会から始まったとのことでした。その頃の私は、子育て奮闘中、柳井市立春日保育所の保母として年長児クラスを担当し、頑張っていました。小学校四年生の時に、私は絵が下手だから習いに行くよう母の勧めで細田先生との御縁が出来ました。学校では白の画用紙しか使っていなかったので色画用紙が珍しく、全部塗りつぶさなくても良いと嬉しかったことを覚えています。校内写生大会があり、入賞したことが私の自信につながりました。夏季大学では林健造先生、園田正治先生等の講義があり、理解出来ない事もたくさんありました。「提案」という形で自分の取り組みの絵を見てもらいながら、次々と質問を受けました。「どうして線書きをして色を付けるのですか。」「共同絵の具の出し方は?」「はしペン?コンテ?」助言の先生からは、努力に対してのお褒めの言葉や又きびしい指摘もありました。ワクワクした気持ちで、聞きのがさないよう必死でした。いろいろ疑問に思う事を夜遅くまで教えていただきました。何回か提案をくり返すうち、自分は描かせようとしていることに気がきました。何か形のあるもの、作品にしなければという思いが強くなっていきました。生活画、観察画、お話の絵と画題が付かないと絵画ではないかのような錯覚さえする程でした。いろいろの人の経験、助言を聞くうちに、だんだん自分としての考え方も出来るようになってきました。作品を作り上げようとするのではなく、子ども達の方から遊びたい描きたいと思うように楽しい経験(線あそび、色あそび、ぬたくり)をしっかりとさせることの大事さ原点にもどってフィンガーペンティング、どろんこあそび等をいっぱいしました。絵が下手だと言われた幼少期を思いだしながら、子どもの中に溶け込みました。こうして未熟な私も少しずつ講師の先生方のお話が理解できるようになりました。そのうち、幼美で育てていただいた経験を生かし委員として皆さんのお世話をするようになりました。夏になったら宮島に行く私を、家族は快く送り出してくれました。若い頃の私は自分の絵を見てもらおうと棧橋に着くのが待ち遠しい程の期待感がありました。造形教育と言われていた私達の取り組みも表現という言葉に変わり、音楽、言語、絵画工作と幅広く学習するようになりました。子ども達の遊びが外での遊びではなく、ゲーム、パソコンと時代が移り変わっても子ども達の素直な心は変わりません。これから育つ子ども達と、毎日関わっておられる先生方に表現活動を通して心が読み取れるような指導者になっていただきたいと思っています。この夏、世界遺産となった宮島で中国幼年美術夏季大学は四十六回を迎えます。一人一人の心が育つ「表現」を研究主題に、幼美での出会いを大事にし、お互いに学び合いましょうと会員の先生方を待っています。初代会長の坂江重雄先生が「よう来たのう。」と笑顔で迎えてくださった日の、あの感激を忘れないようにと今も思っています。

(にしもと みちえ・中国幼年美術の会運営委員)



林 健造 先生

子どもの絵は  
あなたへの  
メッセージです。  
林健造

第8回中国幼年美術夏季大学 (第二次実行)

かがやかしいあそびをひろく子どもたちを、楽しく、たくましく、あかしく、のびのびと育てるために、まようという日を大層にしましょう。

この夏季大学は、幼年期(幼稚園・保育所・小学校低学年)における美術教育の課題を中核として行うものであります。したがって、教育(保育)現場における実践活動を中心としながら、日常に起るさまざまな問題をほかごととし、具体的に解決していこうとするもので、決して理論のための理論や研究のための研究を行なうものではありません。幼年期における美術教育をよりよい方向に進展させるために、この第一歩として学習し、弊社にたいましい理論と実践の力をあがけいっしょに身につけようではありませんか。

中国幼年美術の会 会長 坂江 重雄

研究主題 “子どもの表現力を高めるよう”

賞 賜 要 項

- 主 催 中国幼年美術の会
- 後 援 広島県教育委員会 広島市教育委員会  
広島県幼稚園協会 広島県保育連盟  
山口県幼稚園協会 山口県保育協会  
中国新聞社 美術文化協会
- 協 賛 宮島町 ベン・テム株式会社
- 会 期 昭和50年8月23日(土)、24日(日)、25日(月) 3日間

第8回 中国幼年美術 夏季大学  
昭和50年8月23~25日  
会場：宮島町観光会館

あつし  
のびのび  
と  
あそび  
を  
ひろく  
子ども  
たちを  
たくましく  
あかしく  
のびのび  
と  
育てる  
ために  
まよう  
という  
日を  
大層に  
しましょう。

77. 8. 28

## 東北幼美の歩み

倉本 信之

東北幼年美術の会の結成は昭和53年（1978）3月。そして、記念すべき第1回大会を同年8月に2泊3日の日程、花巻温泉を会場に産声をあげている。中央講師に小関利夫、林建造をお迎えしての会であった。両氏とも東北ご出身である。宿泊参加者236名+通勤参加者と会場は満杯。全員うちわ片手に汗を拭き拭き感動の3日間であったことが記憶に残る。



1970年代、東北各県には、幼児の造形教育に関する単独の民間教育団体の組織はなく、各県の造形教育研究会に所属している程度であった。比叡山での「第1回幼年美術夏季大学」開学に刺激を受け、初代会長渡辺景一が昭和50年「秋田県幼年美術研究会」を発足させ活動していたが、東北にもこの会を結成したいとの願いから東北各県の幼児造形活動に情熱を注いでいる関係者に呼びかけがあった。そのときの呼びかけ趣意書「いま教育の世界は、ますます多様化する社会にあって、子ども達の人間性の回復、人間教育の創造が提言されています。これを考えるとき、幼児教育に課せられた役割は、従来にもましてきわめて重大となったといえよう。（中略）より充実した幼児の造形教育に関心を持つ方々や、すぐれた実践家、研究家が大同団結し、東北のもつ地域性豊かな幼児造形活動の実践について親しく話し合う場をつくろうではありませんか。共に語り、俱に求めながら、幼児造形への新たな指導目標を見定められるよう皆様の積極的な参加を期待してやみません」。

この呼びかけは大きな反響を呼び、「待ってました」とばかりに各県から諸兄弟が集うことになる。この設立の陰に大塚宣之（当時べんてる東北支店長・故人）の全面的なバックアップがあったことを添えておきたい。

こうして、昭和53年3月に発会、8月念願の第一回「東北幼年美術夏季大学」の開学となる。中央講師（前述）分科会講師に青森県＝猪股哲夫・東一宏・松井義雄、秋田県＝渡辺景一・佐藤一視・山崎孝志、岩手県＝清野久一郎・及川節郎・小野寺峰子、宮城県＝横澤文質、山形県＝庄司弘応・長野亘・多田廣三郎、福島県＝倉本信之らがあつている。

こうして、例年花巻温泉にて開学、数々の出会いや感動を実に多くの皆さんと共有し10年があつという間に経過する。そのあいだ、各県の講師陣が他県に出向いての勉強会も続いた。

その後、各県で開催してほしいとのニーズがあつたので各県持ち回り開催に。宮城＝宮城県立美術館、秋田＝追分幼稚園、青森＝油川幼稚園、山形＝山形短期大学付属幼稚園、福島＝相馬海浜自然の家、など主会場として続く。

例年続いた東北幼美の夏季大会・研修会、今振り返ってみると、「東北幼美」として確固として残ってきたものは、「公開保育」（会員の指導もあり、現場幼稚園教諭の指導もあり）で保育の現実をみんなで共有しみんなで語るといふもの、それと徹底した「幼児の絵を読む・幼児の絵からその子を読む」ことである。

このあいだ、東北版「幼年美術」冊子もA4サイズカラーでVOL4まで発刊（1000部）会員の研究発表やご意見、夏季大学の報告、現場の先生方のご意見などを掲載し配布している。（企画編集＝倉本）



日本経済は高度成長からバブル崩壊、そして不況が続き、また研修会離れで苦難の道のりも経験する。それに追い討ち東北地方は東日本大震災と原発事故による大打撃を経験する。が、世の中どう変転しようと教育の原点を失ってはならない、と昨年事故から一年8ヶ月を経た11月、第29回秋季研修会を福島大学を会場に「いきいきとした子どもを育てよう」を開催したところだ。

ここからは、自分の私見も入りますが、会発足にどこからお誘いをいただいたのかは定かではないが発足準備会に出席。そして、第一回の研修会から回を重ねるごと、若さ故というのでしょうか、稚拙な公開指導を人前にさらけだしては、そこで勉強させられながら指導を受けてきたように思う。そこで、経験豊富な先輩諸兄弟との出会い、感動感動で大海を見させていただいた想いである。全国幼年美術夏季大学にも東京幼美研修会にもたびたび出席させていただいては勉強させていただいた。幼年美術を通じて実に多くのすばらしい諸兄弟との出会いでいただいた心優しさやおもいやりを自分の糧として、作画制作と幼少年の造形活動や自然体験活動を展開している現在です。

どうもありがとうございます。文中敬称略。

（冊子「東北幼年美術」に掲載の前会長・顧問佐藤一視の原稿を一部参考にしております）

（くらもと のぶゆき・東北幼年美術の会事務局）



## 「これからの幼児教育を考える」

石原 昌一

全国幼年美術の会 50周年おめでとうございます。近年までは、人生50年という言葉がありました。これは一人の人間の一生の単位であり大変意義のある言葉だと思います。50歳を超える人にとっては、50年のその人個人の成長の歴史があり、その間の日本社会や世界の変化の歴史もあります。当時の日本は、終戦から立ち直り、高度経済成長の時期に入っていたように思います。日本アメリカを中心とした安全保障の在り方を巡っての世論の高揚・対立、経済を巡っての労働組合の闘争、教育改革についての対立など世の中も大きく動き出していました。幼児教育における「教育」と「保育」障害児教育における「保育」の問題もこのころからの議論だったと思います。そして幼保一体化の討論、方向性についても同時に話し合われていたように思います。個人的な話ですが、わたくしが幼児教育に出会って絵画制作に関わったのもこの頃です。幼児の発達についてははっきり自覚したのを覚えています。

この50年間には社会構造が大きく変わりました。都市化が大きく進みました。子どもたちの遊び場であった緑地帯、河原や広場・空地などが減少しました。都市部の学校では運動場が屋上というところもあります。そして農村漁村などは過疎化が進んだように思われます。学校の大規模な統廃合も行われております。経済発展を背景に生活水準も大きく変化してきました。高学歴社会の実現と受験戦争、そして少子高齢化社会へと進んできました。情報社会とグローバル化、社会は急速に変化しているように思われます。

遊びの質が大きく変化しています。地域での遊び場の減少と少子化は子どもの遊びの質を大きく変化させております。遊び場がない、たとえあっても子どもがいない、仲間ができない。親や地域の人々が人為的に作らなければ子ども社会は成立しなくなっています。自然体の子ども集団は、同じ子ども同士で小社会を作り、社会生活を楽しみ、経験を豊かにしていきます。その仲間遊び、遊びの工夫をし、技術を学び、描いたり、作ったり、創造力を高め、観察力や、道理を自然に学び取ります。私が幼少時住んでいた場所も大きく変化し、都市化しておりました。田んぼや畑も少し残っていましたがそれらは無くなり、工場地帯や、商業地帯だった場所も、そのほとんどがアパートあるいは高層マンションに生まれ変わっていました。泳いだり魚を取った川もどぶ川になっており空地や公園も見当たりませんでした。なんとという代わり様でしょう。がっかりしたのもです。その頃は、どこの家族も4～5人の兄弟がいたように思いますし、兄弟の中でも一つの子どもの社会があったように思います。3～4人の集団で遊ぶこともありましたが、2～30人の地域子ども集団でごっこ遊びをし、木を切ったり、削ったり、木の葉や、草を野菜に見立てたりして男女ともに遊んでいたように思います。こういう中で前述したように小社会の中で社会経験を積んだと思っています。人間関係の中で生きる力や、勇気、ある時はつらさ、悲しみ、なども学んだように思います。

これからの幼児教育を考える。このような社会環境の変化は、乳幼児の保育・教育にとっても大きく変化せざるを得ません。それまで兄弟間や地域子ども社会の中で育ってきた社会性、人間関係、創造力、独自性、工夫、技能など生きるための術を学ぶ場所が崩壊しています。このことを考えるにあたって当然考えられるのは、家庭や地域社会ですが、家庭環境の変化で、これにも限界があると思われれます。私は、乳幼児も含め子ども社会を実現できるのは、保育園であり、幼稚園であると思います。特に幼保一体化の考えを進める必要があるように思われれます。最近では乳幼児の発達段階を踏まえた実践報告も増えてきました。3・4・5歳の絵画や、粘土遊び、造形遊び、そのほかの保育体験の中でも素晴らしい幼児・個の発達や集団としての発達が報告されております。これ等の積み重ねてきた実践と科学的な最新の乳幼児の発達段階を加味して「乳・幼児教育の体系化」を目指したいものです。

美術教育はすべての教科の礎になりうる。美術はお絵描き・粘土・物作りなどと考えられがちですが、それだけでなく同時に、観察力、創造力、応用力などが付き、科学や、文学などの基礎的な力が付きます。教科としての美術教育を大いに振興しましょう。

(いしはら しょういち・九州幼年美術の会会長)